さくら

学校法人ノースアジア大学
【学園広報誌】
252・253
合併号
March

【特集】経済学生ゼミナール大会での好成績

【特集】三大学の地域貢献

- 学園強化部トピックス
- 国際社会を舞台に活躍する人材を育成
- 行事ピックアップ

NORTH ASIA UNIVERSITY
SINCE1953

特集 経済学生ゼミナール大会での好成績
― 経済学部 プレゼンテーション1位の理由

学外の経済学生ゼミナール大会で1位など好成績を挙げている経済学部。その理由として、経済学部では、入学直後から少人数による総合科目で基礎を養い、専門科目と2年生からのゼミナールで応用力を磨き、知識を深められるカリキュラムを編成していることが背景にあります。今回は、総合科目から段階的に学ぶ学生たちの様子を紹介します。

経済学を学ぶための基礎を作る　総合科目

学生に大学4年間を通して、経済学をしっかりと勉強してもらうための動機付けは、入学直後の総合科目から始まります。

この科目では、2年生以降の学びにつながるように、物事の捉え方、内容に沿った情報収集の仕方やプレゼンテーションの方法といった、経済学部で必要な事柄を少人数のグループに分かれ徹底して学びます。この間、教員からは資料の作り方、プレゼンテーションでの姿勢、聴衆への訴え方など、実践的な部分でも指導を受けます。

科目の後期には、学習した成果を発表する機会としてプレゼンテーション大会を設けています。学生は、各グループでテーマを設定し、文献などの調査を行い、内容をまとめて発表します。大会には、1年生全員と総合科目を担当する教員が参加しており、内容への質疑応答も活発に行われます。結果の優劣を争うのではなく、1年間を通して総合科目で培った成果を発表します。自分の勉強の積み重ねを周りと比較し、経済学部で勉強するための基礎がしっかりとできているのか、ゼミナールでより専門的な勉強ができるのかといったことを考える機会になっています。

教員・学生が共に学び、専門知識を深める　専門科目群

総合科目で培った物事の捉え方や情報収集の仕方などを生かし、経済学の知識を深め、発展させるのが、専門科目とゼミナールです。

基盤科目・発展科目・実践科目　― 段階的に経済の専門知識を深める

本学経済学部の専門科目は、経済学を社会で「生かす」ことができるように段階的に知識が身に付くように工夫されています。

科目は、基礎力を養う基盤科目、現状を分析する力を高める発展科目、参加・体験型の授業でコミュニケーション能力といった具体的に社会で必要な力を高める実践科目、の３つから構成しています。

学生は、基盤科目、発展科目、実践科目の３つを相互に結びつけて学び、自身の能力や知識を高めていきます。

また、専門知識を深めるためには、良いテーマ・研究課題を選択することが必要です。それを選ぶ思考力に加えて、テーマに対して有意義な結論を導き出すためのアイデア・方法論などを得られるのが本学部の専門科目です。専門科目の学びを深めて、社会の課題を解決するために、どういったことが必要なのかをしっかりと見極める知識を身に付けていきます。

ゼミナール　― 先輩・後輩同士が学び合い専門知識を深める

経済学部は、ゼミナールを教育の要として考えています。重点を置いているこの科目では、学外でのフィールドワークや報告会、学内で研究の成果を競う大会があり、年間を通して活発な活動を続けています。

「ゼミナールでは、先輩が研究し発表する内容に対して疑問に思ったことや意見などをお互いに出し合い、積極的に議論をしています。この様子を見た後輩たちも一層課題に挙げたことを細かに調べ、内容を深める取り組みをするように変化していきます。こうして、ゼミ内で勉強と向き合う良い流れができています」とゼミナールの担当教員は話します。

2年生からは、自分が希望したゼミナールに所属し、興味、関心をもった専門分野の内容と知識を深めることができます。ここで大きな存在となるのが同じ分野を勉強している 3･4 年生の先輩です。先輩たちが調査･研究内容をまとめ、プレゼンテーションしてきた結果、学外のゼミナール大会で優秀な実績を挙げてきました。ゼミナールで、同じ研究、テーマについて、繰り返し行われる討論から、知識を積み重ねて研究内容を深めていきます。

この過程を経てまとめた内容が評価され、それが学生の自信につながり、同じゼミナールで研究をする後輩や他の学生にも、良い影響を与えています。

プレゼンテーションでの実績

第60期東北･北海道経済学生ゼミナール大会

【プレゼンテーション部門】

1位　金融論ゼミナール（銀行研究班）
「地域銀行の合併分析
－金融庁と公正取引委員会の視点から－」

2位　金融論ゼミナール（地域経済分析班）
「自治体病院の効率性とモラルハザード」

第59期東北･北海道経済学生ゼミナール大会

【プレゼンテーション部門】

2位　環境学ゼミナール
「バナナからみた日本人の味覚と果物の選好性に関する検討」

3位　金融論ゼミナール
「地方自治体の情報投資の効率性分析
―504市町村のデータから情報投資効率性の要因を探る－」

特集 三大学の地域貢献

― ノースアジア大・看護福祉大・栄養短大の県内各地での取り組み

ノースアジア大学・秋田看護福祉大学・秋田栄養短期大学では、各大学の特長を生かした地域貢献活動を県内各地で行っています。今回は、機能別消防団、地域の特産品を活用した公開講座といった分野の取り組みを紹介します。

魅力ある講演会とシンポジウムを開催

公開講座など［ノースアジア大学］

ノースアジア大学では、経済・法両学部の地域での研究・調査及び報告会をはじめ、総合研究センターや雪国民俗館の講演会、シンポジウムでの大学の教育・研究資源を生かした地域での活動が盛んです。

総合研究センターは、公開講座として、著名な客員教授の先生方による講演会、東映映画の先行上映会、シンポジウムを開催。そのほかにも、学園内の大学・短大、高校吹奏楽部が合同で演奏するノースアジア大学ウインドオーケストラ・コンサートなどを行い、地域の方のさまざまな好奇心を刺激する機会を提供しています。

魅力的な講師がユーモアを交えて語り掛ける

講演会では、秋田県にゆかりのある橋本五郎先生や内館牧子先生、政治学者の福岡政行先生など魅力ある講師陣が、その時々の社会の出来事や話題などを取り上げて、ユーモアを交えながら参加した地域の方に語り掛けます。中には、普段テレビや新聞などで伝えられる出来事の舞台裏の情報もあって、真剣に聞き入ってメモをしている場面や鋭い考察に拍手や笑い声が会場から上がる場面など、地域の方から親しまれています。

地域と一緒に秋田の民俗・文化を考える

毎年開催している雪国民俗館の民俗学シンポジウム。テーマは、秋田県の各地にある豊かな文化、民俗、風習の中から、なまはげ、梵天祭り、山岳信仰などを取り上げて、県内各地域で開催をしています。シンポジウムでは、民俗を研究する教員だけに限らず、経済、自然、社会学といった他の分野からの切り口で文化、民俗を学術的に分析・解説し、古くから地域社会の中で受け継がれてきたことを、今後どのように伝えるのかといったことを見つめ直す機会にもなっています。

公開講座 等（平成29年度 主な実績）

【総合研究センター】
- 内館牧子先生講演会
  「『生きのこる』ということ ―相撲史に学ぶ」
  など　講演会8回開催、講座2回開催
- 第10回ノースアジア大学文学賞
- ノースアジア大学ウインドオーケストラ・コンサート

【雪国民俗館】
- 民俗学シンポジウム
  「男鹿の暮らしと文化 ―自然・社会・民俗の視点から―」

地域を守る消防団

機能別消防団［秋田看護福祉大学］

秋田看護福祉大学では、大学や実習先での学習にとどまらず、機能別消防団、思春期ピアカウンセリングといった活動を周辺市町村と行っています。学生は、これらの活動を通して地域に貢献すると共に、社会が求める知識を身に付けています。今回は、大館市機能別消防団での活動の様子を紹介します。

大規模災害が発生した場合に、避難所運営や応急手当等の後方支援活動を行う機能別消防団。大館市機能別消防団は、本学看護福祉学部の学生で構成され、現在63名で活動しています。平成25年4月の発足以来、学生たちは、定期的に救命講習を受講し、心肺蘇生法・応急手当などの訓練を受けています。卒業後、保健・医療の分野に就職する学生にとって、講習を通して得た知識は将来に必要なもの。実践的な知識を得られる機会としても、とても有益な活動となっています。

実際に平成25年8月の県北での豪雨災害時には、機能別消防団員が駆け付け、避難者の受け入れ準備や誘導、体調確認などを教職員や大学に居合わせた他の学生とともに行いました。

広報活動にも参加して幅広く活躍

機能別消防団は、これまでの活動が評価され、秋田県より消防功労者（優良事業所）として表彰を受けました。

また、学生たちも消防団員の募集に協力をしており、平成26年版消防庁の全国版ポスターには、機能別消防団で活動する本学の女子学生2人が採用されました。その他、秋田県の広報番組に出演し、県民の防災意識を高める告知を行ったり、秋田地方気象台による「緊急地震速報広報ソング」の収録に参加したりと、防災に関心を持ってもらう活動にも積極的に参加しています。

学生のアイデアで特産品に新たな魅力

移動公開講座［秋田栄養短期大学］

開学以来、食物、栄養、保健に関連する専門分野の知識を生かした公開講座を開講している栄養短大。平成 29 年度は、男鹿市、大仙市での公開講座を実施し、大館市、横手市、秋田市では、高校生向けの講座を行いました。

移動公開講座（平成29年度実績）
◎［男鹿市］　講演「そばの保存性」
　　調理実習　食材「浜のそば」を使ったメニュー
◎［大仙市］　講演「地域の特産品を活かした健康的な食事」
　　調理実習　食材「杜仲豚」を使ったメニュー

秋田栄養短期大学は、秋田県内の市町村と連携して行う移動公開講座において、教員や学生のアイデアの中から、特産品の地産地消や消費の拡大、活用につながることが期待されています。

また、高校生を対象とした講座では、成長期の食事や栄養の摂り方など、高校生にとって、これから健康な生活を送るために必要な知識を提供しています。

近年は、これらの講座に学生が参加し、様々なアイデアを出す機会を通して社会の中で栄養士としての知識、能力を高めることを併せて行っています。

このほど、大仙市で開催した公開講座では、同市中仙地区の特産品「杜仲豚」を活用した調理の実習や豚肉の栄養に関する講義を開催し、参加した方から好評を得ていました。

明桜高校 男子サッカー部　明桜高校 硬式野球部

監督・コーチインタビュー

学園強化部トピックス

明桜高校男子サッカー部　コーチ 原　美彦

日本をリードするチームに
― 明桜サッカーファミリーとして一致団結

【経歴等】
氏　名／原 美彦(はら よしひこ)
出身地／大阪府
[主な指導歴]
●ヴィッセル神戸U-18コーチ
●名古屋グランパスU-15コーチ
●ガンバ大阪ジュニア・ジュニアユースコーチ
●国見高校(長崎県)サッカー部コーチ
など
[資格]
JFA公認 A級コーチ
ジェネラルライセンス

日本をリードできるような選手、チームづくりをしたいと思っています。また、サッカーを通し、部員たちが自立した社会人となるように成長を促すことにも取り組みます。そのためには、学校、部員、保護者、スタッフが一つにまとまらなければ達成できません。これまでの、高校男子サッカー部の良き伝統を積み重ねてきた先輩、スタッフの方の志を引き継ぎながら、目標の達成に向けて、自分のカラーを出していきたいと考えています。

目指すサッカーは、世界基準となっている、全員攻撃、全員守備です。前線から最終ラインまで組織的に連携し、積極的にボールを奪い、攻撃につなげることを目指していますので、練習から頭、からだ、心の全てにおいて、ハードワークを求めています。目指す中では、組織的サッカーだけに限らず、個人の特長も生かせる躍動感のあるサッカーをしたいと考えています。

時間は限られていますが、大会に向けて、入念に計画し、練習、ミーティング、練習試合を通してチームの骨組みを固めています。4 月8 日からリーグ戦が始まるので、そこには照準を合わせつつも、全国高校総体、高校選手権に向けて、チームを仕上げて行きます。

※原コーチは、平成 30 年 4 月 1 日から男子サッカー部の監督に就任します。

明桜高校硬式野球部　監督 輿石　重弘

全国制覇へ総合力で勝負

この夏は、全国高校野球選手権大会が100回目、本校は連続出場がかかる大会になります。選手たちも意識を高く持っており、県大会の連覇、その勢いをもって全国制覇という目標を達成したいと考えています。

野球部では、昨年の秋から走塁と打撃に重点を置いて練習を行ってきました。合わせて、基礎体力を上げるトレーニングにも取り組みましたので、技術を生かせる力が付いてきたと感じています。

今年は、打撃に特徴があって、積極的な走塁を使える野球ができると思います。しかし、基本は投手力と守備力。そこは今後も大切にした上で、攻撃・守備どちらからでも良いリズムを作って相乗効果を高めたいと思います。現段階で投手力、守備力は充実していると考えています。今後、実戦を通して走塁、打撃を引き上げて、昨年と同様に総合力で各試合に臨み、優勝を目指します。

写真で振り返る学園強化部の活躍

明桜高校硬式野球部

第 99 回全国高等学校野球選手権大会出場

ノースアジア大学硬式野球部

ノースアジア大学サッカー部

準優勝 ― 天皇杯全日本サッカー選手権大会秋田県予選

明桜高校男子サッカー部

準優勝 ― 秋田県高校新人サッカー大会

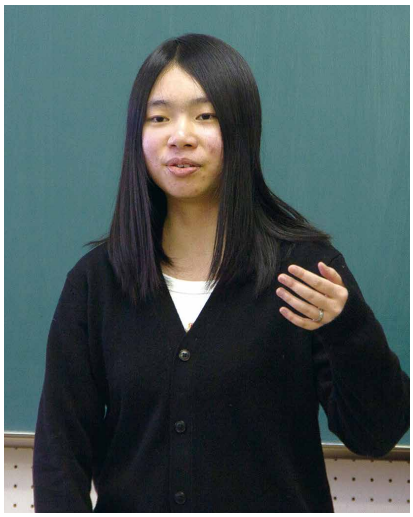
明桜高校女子サッカー部

5 年連続ベスト 4 ― 全日本高校女子サッカー選手権大会東北地域予選

国際社会を舞台に活躍する人材を育成

留学生スピーチコンテスト［ノースアジア大学］

— 留学生の視点で見る母国と日本との違いとは



このほど、ノースアジア大学の留学生を対象とした日本語のスピーチコンテンストを開催しました。このコンテストは、本学に留学している学生の日本語学習の成果を発表する機会として、7人が参加して行いました。

今回、最優秀賞を獲得したのは、謝孟凌さん（真理大学・台湾）の「台湾と日本、大学生活のあるある」。内容は、台湾と日本の講義、自身の生活の比較を中心に、ユーモアに溢れたスピーチを展開しました。優秀賞は、金由眞さん（培材大学校・韓国）の「私の留学生活」と荘侑樺さん（真理大学・台湾）の「秋田と私」の２つです。

三浦薫国際センター副センター長は「スピーチになると、思考や表現力などその人の個性が出てきます。今回のコンテストでは、普段の留学生の姿とは別の部分を見ることができました。また、参加した学生にとって良い刺激になったと考えています」とコンテスト開催について話しました。

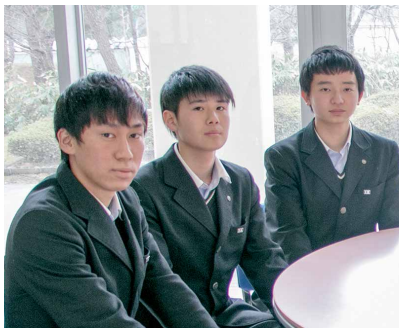
交換留学生紹介［明桜高校］

— 青少年期から育む日本・台湾の交流

充実した明桜での留学生活を経験して

今年１月から明桜高校に留学している淡水高級商工職業学校の陳楷婷 さん、林玟芸 さん、張舒閔 さんの３人。帰国前に高校での思い出について聞いてみました。

高校生活では「明桜の先生、生徒ともにみんな優しいです。生徒は、同じクラスの人はもちろん、他のクラスの生徒も気軽に声を掛けてくれてあいさつをしてくれます」と家族的な雰囲気を気に入った様子。また、日本語会話のレベルが上がったと話す３人は「ホームステイをしている家族との会話も来日当初よりスムーズになって、いろいろな会話ができました」と留学での成果を話してくれました。



（写真左から）菊谷さん、中川さん、嵯峨さん

台湾への留学から将来の視野を広げる

この４月から淡水高級商工職業学校（台湾）に留学を予定している菊谷涼羽さん（２年）、中川二千希さん（２年）、嵯峨裕樹さん（１年）の３人に、台湾での抱負について聞いてみました。

嵯峨さんと中川さんが留学するきっかけは、昨年の台湾への修学旅行。淡水商工との生徒と交流する中で、優しさや楽しさを感じてもっと台湾のことを知りたい、と考えるようになりました。共に「留学期間中は、中国語をしっかりと身に付けたいと考えています。言葉だけではなく、現地の文化についても体験し、吸収したいと思います」と話してくれました。一方で嵯峨さんは「私自身が成長したいと考えて留学を決意しました。積極的に自分の考えを伝えようとする台湾の生徒と交流し、台湾での交流の機会を増やして成長したい」と話しました。

ノースアジア大　アジアの経済を学ぶ学生との交流　―対日理解促進交流プログラム

このほど、ノースアジア大学をインド、ネパール、ブータンの大学生 32人が訪問しました。

これは、外務省が推進している「対日理解促進交流プログラム」の一環として、一般財団法人秋田県青年会館から要請を受けて行った交流事業です。当日は、経済学部の日本経済に関する講義を受講したほか、本学の学生2組が地域経済を題材にして英語でプレゼンを行い、質疑を受ける機会を設けました。このほか、昼食会では、工藤勇樹さん（4年 経済学部）の三味線演奏を含めて学生間の交流を図りました。

ノースアジア大　高齢化が進む地域の防災を考える ― 観光学科

「心つなぎ合う防災活動」と題し観光学科の学生が八橋地区の町内会の方と連携した活動を実施しました。

今回の活動では、地域の方への防災に関するアンケート調査から地域の課題を探りました。合わせて防災訓練・避難誘導をしました。

ノースアジア大　明桜高校　高校での勉強内容を一歩踏み込んで学ぶ ― 高大連携

ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、秋田栄養短期大学は、各学科の専門領域を生かして、明桜高校との間で、高大連携講座を開講しています。この講座では、高校での普段の勉強から一歩深く踏み込んで内容を学んでいます。

この日は、経済学部の教員が歴史分野から、秋田県に関わりのある人物を取り上げた講義を行いました。

栄養短大　特産品「浜のそば」を生かして ― 移動公開講座

11月25日に、船川港公民館（男鹿市）を会場に、秋田栄養短期大学主催の移動公開講座を開催しました。

講座では、地域の方と学生が、そばの実を使ったリゾットなどを調理し試食しました。その後、本学の教員が『そばの保存性』を題材に講演をしました。

明桜高校　日本の文化を通して中国の生徒と交流

このほど、中国から蘇州外国語学校の交流団11人（教員1人・生徒10人）が来校しました。来日した生徒は、本校生徒とパートナーとなって日本語教室、部活動見学、折り紙、書道、ヤートセ、英会話などの特別授業を通して交流を行いました。

行事ピックアップ

明桜高校

男子サッカー部 準優勝
― 県高校新人サッカー大会

明桜高校男子サッカー部は、11月3日から行われた全県高校新人サッカー大会において、準優勝の成績を収めました。

大会では、1回戦から出場し、準決勝までの3試合を1失点の堅守で勝ち進みました。惜しくも決勝では敗れましたが、チームワークの良さを生かしたプレーが随所で見られました。

明桜高校

明るく華やかな音色を届ける
― 吹奏楽部定期演奏会

明桜高校吹奏楽部は、11月5日に秋田市文化会館での定期演奏会を開催しました。

26回目を迎えた演奏会は、第1部クラシックステージに、秋田市出身のプロトランペット奏者の方をゲストにお招きし合奏を行いました。第2部のステージでは、ダンスや歌を交えて会場と一体になって盛り上がりました。

雪国民俗館

民俗・地域共同体などの観点から考える
― 民俗学シンポジウム

このほど、男鹿市役所戸賀出張所を会場に、本学雪国民俗館主催のシンポジウムを開催しました。

本学教員からは、男鹿での海に関わる暮らし、小学校を中心とした地域共同体、生活環境が及ぼす健康などへの影響の分野について報告。また、学生は、秋田の祭りについて調査した内容を中間報告しました。

明桜高校

硬式野球部 3連覇
― 秋田県1年生トーナメント

明桜高校硬式野球部の1年生は、11月3日から行われた第3回グリーンカップ秋田県1年生トーナメントで優勝しました。本校野球部は、秋田市予選、中央地区代表決定トーナメントに勝利し、出場権を獲得。県トーナメントでは、投打に勝負強さを発揮して3連勝で、3連覇の栄冠を勝ち取りました。

こども園

大きなクリスマスツリーをもらったよ

大きなクリスマスツリーを前に、園児たちは、大喜び。

附属のびのびこども園では、クリスマスを前に、秋田県林業公社と県緑化推進委員会からクリスマスツリー用として大きな秋田杉の木をいただきました。園児たちは準備した飾りを、先生と一緒に取り付けし、クリスマスツリーを完成させました。

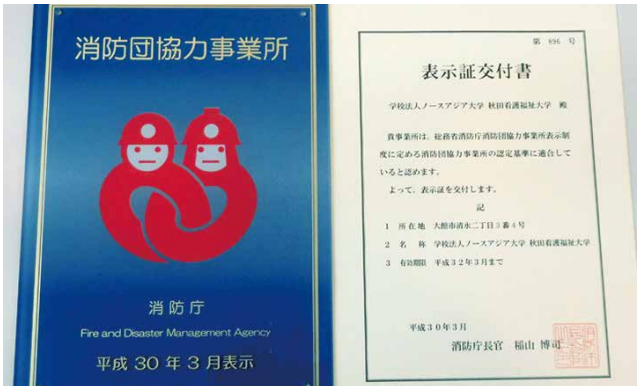
総合研究センター

日本の政治・経済・外交の舞台裏を語る
― 福岡政行先生講演会

12月2日に、総合研究センター客員教授の福岡政行先生による講演会を開催しました。

講演会では、今秋に行われた衆議院議員選挙での各党の動きやその後の政治情勢を中心に、ニュースで取り上げられる時事問題を幅広く取り上げて、解説しました。

看護福祉大　大学として全国初の「消防団協力事業所」の認定　機能別消防団の活動が認められる



このたび秋田看護福祉大学は、全国で初めて大学として「総務省消防庁消防団協力事業所」の認定を受けました。

今回の認定について、小泉正樹学長は「大館市消防本部の職員の皆さんをはじめ大館市消防団員の方々の多大な支援を得て、これまで活動を続けることができました。卒業生を含めこれまでの団員たちが一つひとつ積み上げてきた活動が、今回の認定を受けることにつながったと思います。団員にはこの意味を胸に刻み、今後も大館市機能別消防団としての誇りを持って、地域の防災活動にあたってほしいと思います」とこれからの機能別消防団への期待を話しました。

ノースアジア大　本格化する就職活動を前に キャリア支援の取り組み

このほど、キャリアセンターでは、就職活動直前対策講座を開催しました。

講座では、県内で開催される企業説明会の情報や同センターの活用方法などの情報を伝えました。参加した学生からは「これから就職活動をどのようなスケジュールで進めるのがよいかが分かって、とても参考になりました」などの前向きな感想が聞かれました。

栄養短大　栄養学を考察した成果を報告 ― ゼミナール研究発表会

このほど、栄養学科の2年生がゼミナールでの1年間を通し、研究・調査を行った成果を発表する「ゼミナール研究発表会」を開催しました。この日は、2年生の学生10組が栄養教育に関することをはじめ、県内の特産品の認知度向上や販路の拡大への協力を目的としたレシピの開発や特産品の研究などについて発表を行いました。

観光学科　卒業生に聞く ― OB・OG懇談会

観光学科卒業生に参加してもらい、OB・OG懇談会を開催しました。

昨年に続いて行われたこの会では、学生たちが日頃の働き方や働く中でのこと、大学時代に身に付けておくべきことなどを率直に聞いていました。

ノースアジア大 明桜高校　大学・短大への進学を考える ― 先輩講話

このほど、明桜高校の1年生を対象として先輩講話を開催。この講話は、高校卒業後の進路を考える機会として毎年行っています。今回は、学園内の大学に進学した先輩から大学での生活や勉強、留学で体験したことなどについて事細かに伝えました。参加した生徒は、先輩の話に耳を傾けてメモを取っていました。

行事ピックアップ

ノースアジア大　繁田康平さん ラインメール青森FC[JFL所属]に入団 ― 大学サッカー部

このたび、大学サッカー部の繁田康平さん（4年　経済学部）が日本フットボールリーグ（JFL）所属のラインメール青森FC（青森県）に入団することになりました。

繁田さんは、本学入学後、1年生からサッカー部の主力ディフェンダー、ミッドフィルダーとして活躍。2年生、3年生には、主将を務めてチームを牽引し、平成28年、9年ぶりに東北地区大学サッカーリーグ 1 部昇格への原動力となりました。

新たなステージでの繁田さんの活躍にご期待ください。

総合研究センター　ユーモアを交えて映画制作の舞台裏を語る ― 講演会「映画よもやま話V」東映映画上映会「北の桜守」―

このほど、東映株式会社代表取締役グループ会長岡田裕介先生による講演会「映画よもやま話V」と東映映画上映会「北の桜守」を開催しました。

講演の中で岡田会長は、撮影場所の事前視察での出来事をはじめ、脚本や主人公の人物像を作る過程のことなどを、ユーモアを交えて映画制作の裏側を話しました。講演終了後に上映した“北の3部作”の最終章「北の桜守」では、来場者は映画に見入っていました。

明桜高校　早川隼喜前主将 学生野球協会から表彰 ― 高校硬式野球部

硬式野球部の前主将早川隼喜さんが、日本学生野球協会の平成29年度表彰選手に選ばれました。

リーダーシップを発揮してチームをまとめ、昨夏の全国高等学校野球選手権大会出場の原動力となったことや、練習や学業への熱心な姿勢が評価されました。

伝達式後、早川さんは「とても嬉しいです。高校卒業後も、大学に進学し野球を続けますが、いただいた賞に恥じないように、これからも頑張ります」と話しました。

明桜高校　東北高校新人サッカー選手権 3位 ― 高校女子サッカー部

女子サッカー部は、1月27日から相馬市光陽サッカー場で行われた、第7回東北高等学校新人サッカー選手権大会に出場しました。

この大会では、3位決定戦において5得点する快勝で平成27年度以来の3位入賞を果たしました。

明桜高校　アンサンブルコンテスト県大会で2組が金賞 ― 高校吹奏楽部

1月21日に、秋田県民会館で全日本アンサンブルコンテスト第40回秋田県大会が開催され、本校から出場した2チームが金賞を受賞しました。

金管8重奏と打楽器7重奏、共に息のあった音色を会場に響かせ、8年連続の受賞となりました。